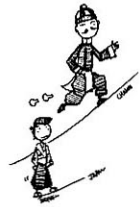
（初出　No.349，09・4）

グラフで見る〈世界経済の動き〉

■グラフで見る世界250



竹田かずき　東京・ウェブデザイナー

●〈日本経済の歴史〉が見えるグラフ

『たのしい授業』08年7月号に，私の描いた「海外旅行者数の変遷」というグラフが掲載されました。日本人旅行者数と海外から日本に訪れる旅行者数についてのお話です。掲載後（7月末），板倉聖宣さんから，「この海外旅行者数の変化は〈日本の経済〉と関係しているんだよ」と教えていただきました。

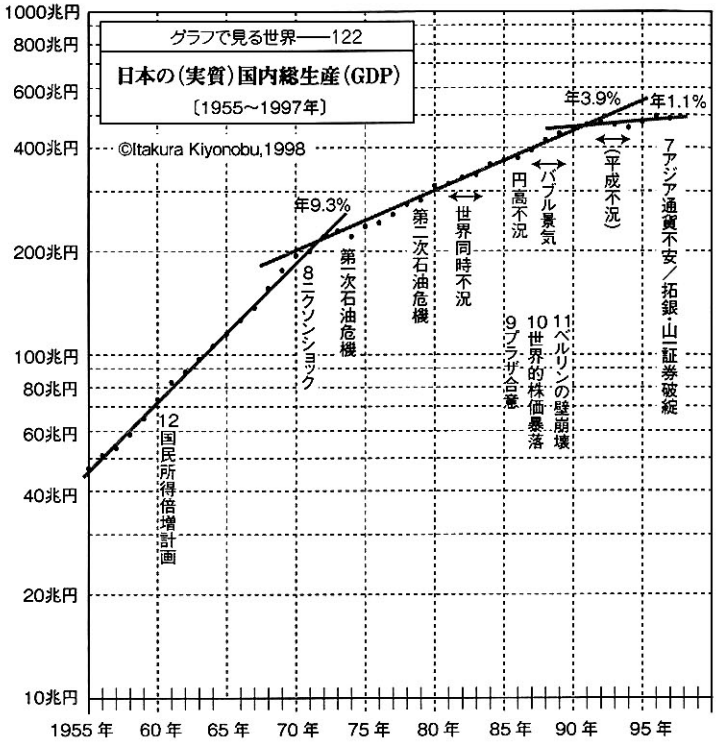
しかし，私はそもそも〈日本の経済の歴史〉を知りません。

こういうときはグラフを描けば見えてくるかも――でも，どのようなグラフを描けば，〈日本の経済の歴史〉が見えてくるのでしょうか。しばらく暗中模索状態でしたが，池田毅司さん（北海道・高校）から「『たの授』98年8月号に，板倉さんの書いた〈日本の経済成長率の変動〉という記事が載っているよ」と教えてもらいました。

そこに描かれていたのは，1955～1997年度の日本の国内総生

産の総額変遷を示すグラフでした（下図）。国内総生産（GDP = Gross Domestic Product）というのは，「その国の経済（生産）活動 の全てを，だいたい（Gross）の〈金額〉であらわしたもの」で，簡単にいえば「国内で売り上げられた金額の総計」です。この国内総生産の伸び率を「経済成長率」といいます。

このグラフは縦軸だけが対数目盛りになっている片対数グラフで，金額の変化率（傾斜）を見るグラフです。点がその変動を表しているのですが，その点にそって線が引いてあります。線が直



線の部分は「成長率が一定」ということです。この記事では，その線の傾斜により，戦後の日本を３つの時代に分けていました。

・1955 年度～ 1972 年度＝年率 9.3% の成長率の時代
・1973 年度～ 1991 年度＝年率 3.9％の成長率の時代
・1992 年度～ 1997 年度＝年率 1.1％の成長率の時代

私は「日本の経済がこんなにハッキリと見えるんだ～！」と感動しました。しかし，このグラフは 97 年で終わっています。そこで，さっそく 98 年以降のグラフを描いてみることにしました。

〔問題１〕1991 ～ 1997 年の日本の国内総生産は，だいたい年率 1.1% の成長率でした。では，その後の 10 年間を加えた「1991 年～ 2007 年の成長率」は，どのようなものだったと思いますか。

ア．1.1％くらい（変化なし）。　イ．0.5％以下（低くなった）。
ウ．２％以上（高くなった）。

次のページのグラフを見てください。いかがでしょうか。「最近は好景気だった」と予想する人もいますが，私は〈不況〉というイメージが強かったので，「現在でも国内総生産が微増している」ことが分かると，とても驚いてしまいました。

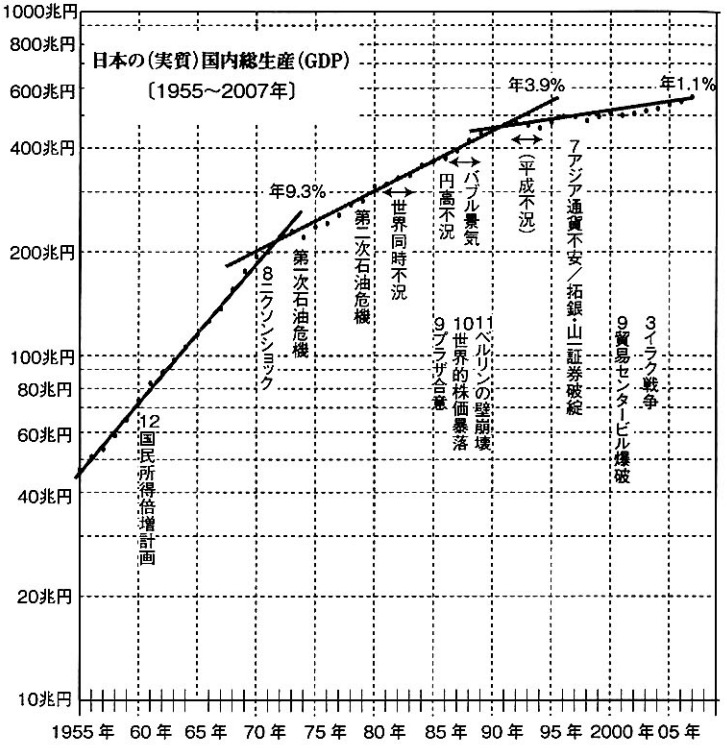
●世界各国の国内総生産のグラフ

このようなグラフを描いてスッキリしていたころ，私の母・竹田美紀子（愛知・小学校）から「夕刊に〈中国成長率　急落○％〉

と載っていたよ。何％だと思う？」と，メールがきました。

〔問題２〕08年７～９月の中国の経済成長率は，〈急落〉ということですが，何％くらいだと思いますか？

ア．９％くらい（日本の高度成長期くらい）。
イ．４％くらい（日本のバブル崩壊前くらい）。
ウ．１％くらい（現在の日本と同じくらい）。



では，その記事を紹介します。

「中国成長率　急落 9.0%　7～9月期通年 10% 割れへ
……4～6月の同 10.1%から大きく減速し，05年10～12月の同 9.9%以来，11四半期ぶりに 10% を下回った」

（『朝日新聞』08年10月20日夕刊第一面より抜粋）

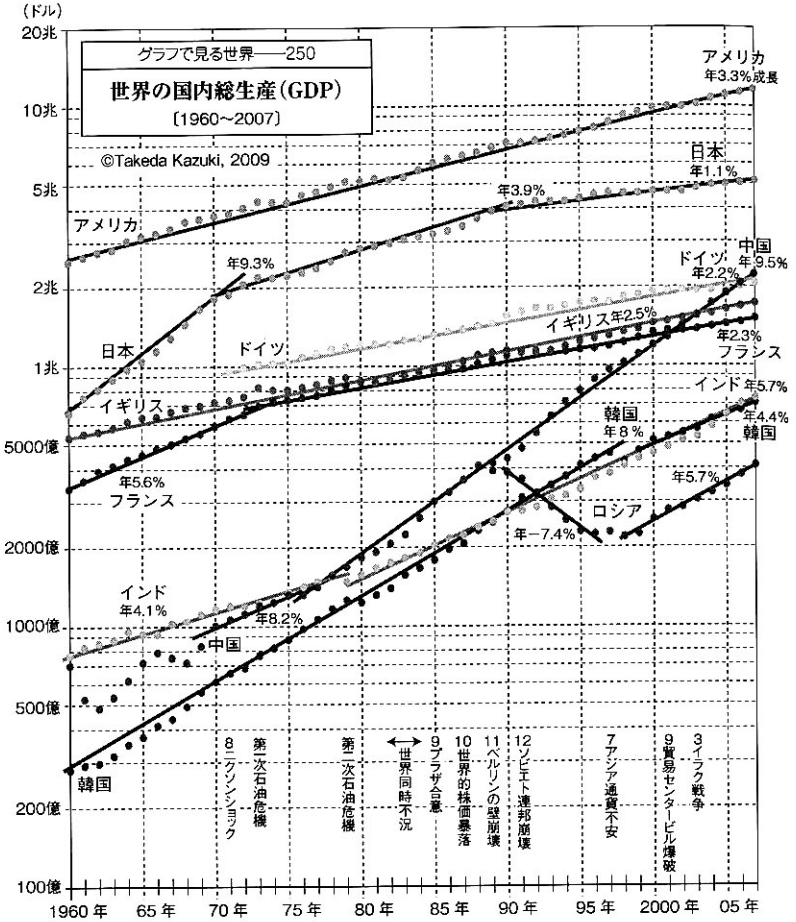
私はこけてしまいました。9%だなんて，とても高い成長率……しかも，10%から9%に〈急落〉だなんて，「長期統計で見れば，〈誤差の範囲〉とも言えるのでは？」と思ったからです。そう思いながら，ふとひらめきました。「〈日本の経済の歴史〉で見てきたように，中国の経済も〈長期的な経済成長率の傾き〉のグラフを使えば，もっとたくさんのことが見えてきそう！　それに中国だけでなく，世界各国のグラフを描けば〈世界の経済の動き〉もわかるかもしれない！」と。

〔問題3〕そこで，9カ国に絞ってグラフを描いてみました。そのうち，アメリカ・インド・韓国・イギリス・ロシアの5カ国の最近（00～07年）の経済成長率は何%くらいだと思いますか？

ア．5～9.9%くらい（日本の高度成長期くらい）。
イ．3～4.9%くらい（日本のバブル崩壊前くらい）。
ウ．1～2.9%くらい（現在の日本と同じくらい）。

アメリカ（　　）　インド（　　）　韓国（　　）
イギリス（　　）　ロシア（　　）

下のグラフを見てください。ここでは，〈ドル建て〉の〈実質〉国内総生産で，数字を計算し直しています。あくまでも〈これはおおよその数だ〉と思って，〈グラフの傾き＝その国の経済成長率〉を見てください。



アメリカは年率3.3%で結果は「イ」。インドは年率5.7%で「ア」。韓国は年率4.4%で「イ」。イギリスは2.5%で「ウ」。ロシアは年率5.7%で「ア」です。

私は,「アメリカがずっと一定の，しかも3.3%成長をしている！」ということにまず驚きました。日本は1990年頃アメリカに近づきつつありましたが，それ以降は離されていっています。そのことを私の兄・竹田正和（東京・会社員）に話すと「日本は人口が頭打ちだけど，アメリカは移民の国で人口が増え続けているね」とのこと。なるほど，それも一因かもしれません。

韓国は，97年まで高い成長率でしたが，それ以降，落ち着いてきたようです。イギリス，フランス，ドイツはいずれも2%あまりです。アメリカや中国，インドの成長率を聞くと，「日本はこのままで大丈夫なのか？ 1%の成長率はとても低いのではないか？」とも思えるのですが，「〈先進国〉と呼ばれるイギリス・フランス・ドイツがほとんど3%にもいっていないので，アメリカがちょっと特殊なのかな」と思えてきました。

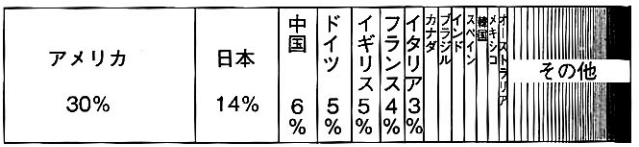
また，ロシアの動きには驚きました。1991年にソ連が崩壊してから96年くらいまで，こんなにマイナス成長をしてたとは思わなかったからです。しかし，2000年くらいからは盛り返してきて，05年には5.7%くらいの成長率になっています（89年以前のデータはありませんでした)。

グラフを描くきっかけになった中国は，76年からずっと一定の成長を続けています。新聞記事の「急落」という見出しは，やはり今のところ〈誤差の範囲〉ではないでしょうか。

●世界１～３位の国は？

ところで，〈成長率（変化率）〉を見るためには，このような対数グラフはとても役に立ちますが，実際の量は見えにくくなってしまいます。縦の目盛の間隔が同じでも，それは変化率が同じであって，〈量の違いはだいぶ違う〉のです。

そこで，帯グラフに描き直し，金額の多い順にならべてみました。2007年の「全世界の国内総生産を合わせた数」の内訳は，このようになります。



アメリカが１位，２位は日本です。その次は，中国が６％，ドイツが５％です。「中国は急成長の国」と分かっていたものの，世界で３位に入るとは思わず，驚きました。

08年９月以後，アメリカを震源地として世界に広がった経済破綻がどういう影響をあたえるか，まだ国際的な統計が出ていません。長期的な視点で今後を予想していきたいです。(08.11.24)

＊データ出典：「平成19年度国民経済計算」（内閣府ホームページ http://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/h19-kaku/21annual-report-j.html）「World Development Indicators Databases, World Bank, 1 July 2008」(世界銀行)。